ちくさええとこ通信

別冊

2016.09.15 発行

発行者
千種まちづくり推進委員会
兵庫県宍粟市千種町千草 59-1
TEL・FAX 0790-71-0230

まちづくり意見集 No.1

第 36 回西播磨ふるさと写真展　入選『お手伝い中止』

はじめに

千種まちづくり推進委員会が発足して４年目に入ります。この委員会は当時の各種団体等のリーダーのみなさんを中心に組織され、市内他地区には見られない千種独特の任意の団体です。現在、二十数名の委員より構成され、千種の住民主導によるまちづくりの核となる存在となっています。旧商工会千種支部を活用した「ええとこセンター」は、昨年度、県民交流広場事業により千種まちづくり推進の拠点として整備されました。このように組織・活動の拠点と、態勢は整い、今まさにより広く、深く活動を進めていこうとしているところです。

まちづくりをより一層進めていくに当たり、各種団体・サークル等で活躍されている代表者のみなさんのまちづくりについての想いを共有していただく機会を設けました。そこで、代表者会議に先立って、代表者のみなさんのまちづくりに係る想いを集約し、当日の資料「千種まちづくりの概要」に反映させていただきました。これは、その際に書いていただいた各種団体等の代表者・会員のみなさんの意見集です。それぞれの意見には、自身の経験や生き様、また、これからの有りようなどを踏まえたまちづくりへの深い想いがあり、千種への愛着と誇りを感じ取ることができます。この想いを更に広く伝えることで千種のまちづくりの気運を高めることができればと思い、まちづくり推進委員会・広報「ええとこ通信・別冊」として発行しました。

まちづくりは一朝一夕でできるものではありません。はじめから解決法が有るわけでもありません。あるとするならば、先ずはまちづくりについて、一人でも多くの人が想う・考える・話すなど、千種のまちにその人なりの気持ちを向けることではないでしょうか。是非、読まれた感想をご家族・仲間と語り合ってください。千種について語り合えば、必ずや千種ならではの、ひと・こと・ものが見えてくることでしょう。それらを掘り起こし、活かし、誇りとすることで、「千種に生まれてよかった。千種に住んでよかった。そして、これからも住み続けたい」と思えるような町にしていこうではありませんか。

この意見集を契機として、「ええとこ通信」が千種のみなさんの意見交換の場となり、まちづくりの原動力となることを切に願っています。

千種地区コミュニティ支援員　　田住　学

主な目次

☆　主として教育・子育てに関する意見 …… 1
☆　主として福祉に関する意見 …… 1
☆　主として防災に関する意見 …… 2
☆　主として農業に関する意見 …… 2
☆　主として商業に関する意見 …… 7
☆　主として観光資源・文化活動に関する意見 …… 7
☆　主としてまちづくり全般に関する意見 …… 9

「まちづくり」に係るアンケート結果について

☆主として教育・子育てに関する意見

40代
男性

小学４．５．６年生で、球技大会のソフトボールのチームが組めない。

少年野球も他市との合同チームとしてでないと組めない。

中学校も新たな野球部員の募集は止めていく予定。今年、史上最も健闘した千種高校野球部も、秋の大会はぎりぎりの９名。このような状況では少ない地元の子供達でさえ地元の学校を避けて他地域の学校を選んだり、家族ごと移住してしまい兼ねない。（都会の大人数の学校の方が、正直子供にとっては、環境として良い気もするので）

また、それを親しい間柄でさえ止めた方が良いとは言いづらい。また、消防団を引退して間もない立場としては、結婚等を機に都会に出たり学校を卒業し、就職で千種を離れてしまうのも親身になって考えると止めることはできない。

簡単な事ではないですが、まず良質な就職先、職場の創生・確保・誘致が急務だと思われます。

自分達も、近い将来、年をとり老人福祉の充実を求めるようになると思いますが、まず何をおいても子供達の明るい未来の見える就学就職先の確保が最重要事項だと思われます。そうして町の人口の増加、もしくは最低でも今以上の減少に歯止めをかける事が、様々な問題の解消に繋がると思います。

どんなに良いサービス、良い商品、イベントも人が居ないと成り立たないので具体的な解決案を出すことが出来ないのが心苦しいですが、現状の報告まで。

40代
女性

小学校におむつ替えのスペース・トイレのベビーチェアが欲しい。

コインランドリーがほしい。

大きい子供も遊べる場所が欲しい。土日に子供が遊べる場所が欲しい。

エーガイヤに求人広告を貼りだして欲しい。

千種北小学校を有効活用して欲しい。

道路に広い歩道が欲しい。

☆主として福祉に関する意見

70代
男性

老人クラブの地域づくりの紹介

仲　　間…高齢者の孤立防止・支え合い活動

暮 ら し…高齢者の生活を支える（友愛訪問）

健　　康…健康の維持増進を図る（いきいき百歳体操・グランドゴルフ・ゲートボールなど）

世代交流…地域で子供を育てる（しめ縄作り・ゲートボール）

伝　　承…歴史や文化の伝承（戦争体験・郷土芸能）

奉　　仕…地域の美化（グランドの草取り・神社の清掃）

介護保険制度が見直され要支援の方々の介護サービスの一部が保険給付から市町の事業に移行することになりました。新地域支援事業に向けて上記の活動を一層進めたいと検討中です。

70代
女性

全国的な流れの中で、地域包括ケアシステムの構想が急がれています。

今後、千種町内において少子高齢化が、急速に進んでいく中で、各自治会毎で高齢者の見守り、また、支え合いが重要であると思います。民生児童委員の立場で千種町の〝まちづくり〟に関わり続けていきたいと思います。

☆主として防災に関する意見

60代
女性

避難所を明確に制定する。各自治会毎に避難計画と共に危険箇所を明確に示し、有事の際の行動パターンを示した冊子を各戸に配布、常備させて徹底する。最低限の防災グッズを住民一人一人に配備する等して意識を高めては如何か。

観光資源・文化活動に関して

季節は限られているが、ちくさ高原への観光客を素通りさせるのではなく、「ええとこセンター」を拠点として千種町内を散策してもらえるような場所を発掘、整備していっては如何か？

「ええとこセンター」に散策用の地図を常備しておく、センター内に写真やいわれを掲示し紹介していく。

☆主として農業に関する意見

50代
男性

思いつくことをいくつか書かせてもらいます。

① 「あきらめていいことじゃない」と思い直すこと

まず、今一度、田舎をなんとかしないとダメなんじゃないか　という気持ちをみんなで持ち直すことが、まず大事だと思います。

「子が、孫が出て行ってしまう。もう戻ってこないだろう。戻って来いとも言えない。」ほとんどの人がこう思っているのではないでしょうか。「困ったことだが、どうしようもない。対策がない」と、実質あきらめているのではないでしょうか。

でも、ホントに田舎が廃墟になってしまっていいのでしょうか。千種だけのことなら、あきらめてもいいかもしれませんが、これは日本全国どこも同じ状況。

これって、ひょっとしてあきらめたらいけないことなんじゃないでしょうか。

食料、水、国土、環境、・・・、これがつぶれて日本は成り立たない！！

「うちの田んぼは荒れてしまうだろう、仕方がない・・・」という、自分の問題だけではないということなんです。それは国としての一大事であり、国民としての危機なんだということです。その認識をまず､みんなで再認識しないといけないと思います。

② 若者の仕事を作る、まず農業で食べていける道を

では、どうすればいいでしょう。

すべては『若者・次世代が帰ってくる、定着するには』に尽きるのではないでしょうか。

若者が定着するには、・・それは、『仕事』 に尽きると思います。もちろん、子育てしたくなるような環境とかも大事です。でも、いくらそれが良くっても、それだけでは田舎を維持できるほどの若者が定着することはないでしょう。

それと、ここで、もう一つ大事なことは、千種だけが良くなるだけではダメ　という視点です。日本全国、どこの田舎も、ともにできる方法を、それをまず千種をモデルとしてやっていくようにするとい

うことだと思います。

共倒れになってしまうような方法、競争に勝ったとこしか残れないような方法、ではダメだと思います。

それで「若者が定着する仕事」と考えたとき、何が考えられるか。

それは、まず『農林業で若者が食べていける仕組みを作って行く』 ということだと思います。

今までは、田んぼは兼業で維持されてきました。今、その兼業の仕事がなくなりました。（土建業や町工場は激減し、山崎あたりにあった大きな工場もなくなった所も多いです）今は何とか主に年金生活者が頑張って維持されてますが、それもいつまでも続きません。

そうなると、田んぼを仕事として成り立つようにしないかぎり田んぼは維持できないのではないでしょうか。そのためには、どれくらいの経費がかかるのか、コメがいくらで売れたら若者が生活できるのか。コメだけなら余ってしまうので、他の作物、例えば、飼料米・麦・大豆・野菜・・なら、いくらで売れれば成り立つのか。

そういうことをきちっと計算して出して、市･県･国に、今の販売価格との差額を要求していく。差額がもらえる仕組みを作ってくれと要求していく。

つまり、今、コメを作れば反当 7,500 円が国から出ます。これは平成 30 年から廃止されますが、廃止ではなく、もっと増額せよ。千種のような中山間地だと、頑張っても 3ha くらいしか作れないので、反当 7 ～ 8 万円の補助金がなければ田んぼは維持できない、それを若者に対象を限定して支払っていこう、というような方法です。

あるいは、個人の農家に支払うことに抵抗があるのならば、集落として農地の維持を考え、集落として若い専従者を雇用し、その資金を行政が補助する仕組みはどうでしょうか。

地域の不耕起田を担当する専従者を不耕起田 3ha あたり一人を基準に雇い入れる。千種町には約 500ha の農地があるので、その半分、250ha が不耕起田になったとすれば、それを 3ha ずつ管理する者を雇ったとして、千種町で約 80 軒の若い家族が農地管理専従者として生活できるようになる。もちろん、その人たちは、その農地でいろいろ作ってさらにもうけていけばいいのです。一軒あたり 200 万円補助したとしても宍粟市全体で 5 億円もあれば、だいたいの不耕起田はカバーできるのではないでしょうか。それで、宍粟市全体で 250 軒の専従者が生まれます。農地も維持でき、観光業も維持できます。田んぼの荒れたところでは観光業も成り立ちません。

そして、それらのおカネは地域で回っていくおカネです。農家だけを成り立たせるのではなく、地域で使われるので商店、大工、その他、さまざまに地域の仕事を成り立たせていくことになります。

無茶なように聞こえますが、日本全国でこれを実施しても、3 兆円くらいあればできることなのです。防衛費に毎年 5 兆円使ってます。3 兆円で日本全国の農地が維持され若者の雇用、地域の仕事が維持されるならば全然無茶な話ではないはずです。

いろいろと課題はもちろんあるでしょうが、これから、千種町の農地、日本の農地を維持していくにはこの方向性しかないのではと思います。よく､｢特産品を作ろう」とか「輸出だ」とか、あるいは､｢農地中間管理機構で農地の集約を｣とか言われますが、どれも、非現実的です。

大事なことは、現実的にどうなれば農地を維持できるか、若者が雇用できるか、それを現実的に打ち出して提示していくことだと思います。無茶と思ってもそれしか方法がないのならば言っていくしかありません。都会の人は田舎の実態をほとんど知らないのです。

それと、日本のマスコミはほとんど報道しないですが、ぜひ皆さんに知ってもらいたいこととして、日本では、農家への補助金のことはあまり良く言われませんが、欧米の農家は収入の半分～ 9 割くらいは､国からの補助金だということです。つまり､｢100 万円自分で稼いだら 500 万～ 900 万円国から補助がもらえる」という国のしっかりした農業保護政策があるのです。欧米の農業は、大規模だから成り立っているのではなく、保護政策でちゃんと生活が補償されているから成り立っているのです。だから、美しい田舎が保たれ、食料自給率も高いのです。

JA さんにもしっかりこういう視点を持って動いて頂きたいと思います。

同様なことが、林業でもたぶん言えるのだと思い

ます。

皆さん、「自分の息子・娘が帰ってくるにはどういう条件だったら帰ってくるか？」 それを考えてみればいいと思います。

その答えで一番よく出てくるのが「公務員や先生にでもなってくれればなあ」ですね。　そうです、だから、農業や林業を公務員にすればいいのです。半公務員に。そして、欧米ではそれが当たり前だということです。

こういうことを、じわじわと広めていき、いつの日か実現にこぎ着ける。遠いようですが、これが日本の田舎がどこも、また元気になる現実的な方法ではないかと私は思います。

③　自給の仕組みを作る

田舎が生き残っていく、もう一つの大事な視点は『自給』だと思います。

具体的な数字は忘れましたが、宍粟市民は稼いできたおカネのほとんどを地域外でできた物を買うことに使う、あるいは、地域外で使ってしまっている、ようです。

それを、少しでも地域内でできた物を買う、地域でおカネを使うようにしていけば、地域に仕事ができていくことになります。

それは、地域内で物が回っていくことになり、環境面でもエコの面でも今からとても大事な視点だと思います。

まずは、食料は地元の物を食べる。麦（小麦粉）も地元で作って地元で消費する。宍粟の学校給食ではすでにそれが行われています。素晴らしいことだと思います。それを一般市民の使うものにまで広げていく。味噌や醤油、他、加工品、総菜等も地元の物を使って地元で作って消費する。これをするだけで、宍粟市内に仕事はかなりできると思います。

そして、それは食の安全という意味でも、とても大事な視点です。遠くから大量にできた物を持ってくるから、要らない添加物や農薬もいっぱい使わなければいけなくなります。これは長い目で見れば、必ず医療費節減につながっていくと思います。

まず、そういう意識を住民がみんな持つように啓発する。『高くても地元産』。

そして、あんまり高かったらやはり皆手が出ないので、そこには、補助を出す。地元産を使えば何か特典があるような仕組みを作る。

エネルギーも少しでも自給できる仕組みを作りたいですね。薪、ペレットストーブ、太陽光発電、水力発電・・・。

宍粟市には、これだけ山があり農地があります。

それを使った生活を作り出していくことが、千種町・宍粟市の生きる道だと思います。

④　学校で農的な暮らし方をしっかり教える、地域と連携して。

子どもたちが将来、田舎に残るには、田舎的な暮らしができる人にならなければなりません。

都会と同じ暮らしを求めていたら、やっぱり都会に出るしかないと思います。

今まで、学校教育は、文部省の決めたカリキュラムをこなすためにありました。でも、それで子どもたちは田舎を大事にする子になったでしょうか。田舎を好きになる子になったでしょうか。

残念ながら、今の文部省のカリキュラムは、極論すれば、都会のいい学校に行くためにあるようなものです。もちろん、今の社会を暮らして行くための知識ではあるのですが、残念ながら、それだけでは田舎に残る子は育たないと私は思います。

やっぱり、本気で田舎に残る子を育てることを学校教育も考えていく必要があるのではと思います。

そのためには、田舎の素晴らしさをしっかり体験させることだと思います。

川遊びをできなくすることは、田舎の自滅だと思います。

農業もしっかり体験させましょう。生き物を育てることは、実はとても楽しいことです。思いやりや優しさも生まれます。

中学や高校になれば、もう十分な労働力となります。　田舎の仕事を仕事として体験させましょう。学校教育の中に組み込む。あるいは、アルバイトで体験させる。しっかりおカネをもらえばいい。おカネをもらえるくらいしっかり働くことが大事です。「お客様」ではダメです。

あるいは、田舎ならではの暮らしとして、昔ながらの漬け物や味噌、お茶、おはぎ作り。あるいは、新しいところで、麦を作ってパンやクッキー、シ

チュー作り。大豆を作って豆腐作り。鶏を飼ってプリンやアイスクリーム作り。何でも自分で作れることを教えましょう。売っている物より、自分で作る物の方がおいしくって安全、健康にいいことを教えましょう。家庭科の授業がとても大切になります。授業数も増やしましょう。他の教科といろいろと連携しましょう。もちろん、学校の先生だけではとてもできるものではないです。地域と深く連携する必要があります。

地域と学校で考えるチームを作り、地域の人がどんどん学校に入っていき、あるいは、生徒が地域にどんどん出ていき、地域と一体となるカリキュラムを作っていきましょう。

それが、田舎に残る教育だと思いますし、「生きる力」を作る教育なのではと思います。

ついで、宍粟市くらいで、「生きるための大学」をホントは作りたいです。

書き出せばキリがないですが、最後に

⑤　獣害対策

これは、田舎的な暮らしを進めていく上で、今、実は一番の問題なのかもしれません。

これも、本気で取り組まなければ田舎はやっていけないように思います。

・猪、鹿を取ったときの賞金をドーンと増やす。

これは、「ハンター」が冬の仕事として成り立つことにつながり、若者の仕事を作ることにもなるわけです。

・犬の活用を考える

昔から人は人だけでは山では生きて来れなかった、犬と共に生きてきました。犬をペットではなく、私たちの暮らしを守るものとしての飼い方を、再度考えていく必要があるのではないでしょうか。特に、猿が出てくればもう犬しか対応策はないと思います。「モンキードッグ」の取り組みが、農水省のＨＰにも出ています。しつけをして合格した犬を特別な服を着せて放す。いくつかの自治体で取り組み始められたようですので、検討していく価値は十分にあると思います。

70代
女性

高齢者になると何も意欲がなく、ただ毎日が難なく過ぎていってくれる事しかありません。その為には健康管理が第一。いま市が取り組んでいる百歳体操には、感謝しています。みんないきいき頑張っています。

農業に関してですが、退職された若い方達に呼びかけて休耕田、廃ビニールハウス等を活用し集団農園をする。これから農業従事者の高齢化により離農者が増えてくるのではと思います。有害鳥獣、雪害など考えると前にはいきませんが、考えなければ町は小さくなっていくような気がします。山田には山椒・梅等の果樹園（この地にあったものを調査し研究）。

百歳体操で元気になった高齢者も何らかのお手伝いが出来るのではと思います。

60代
男性

全国的にも、千種町でも高齢化及び人口減少が進み年々工作放棄地が増えています。このままの状態で推移すれば、千種町の自然環境、生態系は確実に崩壊すると思われます。なぜなら、わが国我が町では遠い昔から水田耕作が行われることによって自然環境が守られて来ました。水田はみんなが毎日食べるお米が穫れると同時に、洪水を防止し地下水脈を養い大気を浄化するといった機能を持っています。

こうした観念から千種町の農業を守るためには、中核農家や営農組織を育成することで耕作放棄地を減少させていくべきです。すでに千種町でも中核的農家は何件か存在しますし、集落営農組合も取り組む姿勢が出始めています。そういった組織や農家、農業の後継者の育成が今必要と考えます。

50代
男性

農業に関わる事ですが、農協・市・団体が農業で生活していけるだけの方向性を考えてくれないと、なかなかやっていけません。食料（野菜・米・果物等）の一括取扱所を考えて欲しいです。そこに持って行けば、売ってもらえる、どこかに出荷してもらえる等。
（先日、視察に行ったＪＡの直売所（稲美町）などはそうでした。）

70代
女性

日頃、猪と鹿にとても大きな被害を受けています。多額の費用をかけて村中に張り巡らされた鹿網も用をなさず、個人で作った防護柵も度々壊される始末です。人口はどんどん減っていき、まさに、獣の世の中になってしまいそうです。農家の生産意欲も落ちる一方です。しかし、一方では鹿肉・猪肉があふれているということでもある。この際、猟師をどんどん育成し、都会に売り出すのはどうでしょう。千種町、いや、宍粟市は森林が９０％以上と言われています。山を決めて手入れし、山菜の豊富な里山を作り都会の人たちに山菜狩りをしていただく。オールシーズンを通じて食事も提供する。冬は雪見を。千種町は四季があります。これはとても素晴らしいことだと思います。

様々な公共施設も整い満たされつつあります。教育環境も先生方もとても良いと思います。広く世の中へ発信して宣伝して下さい。自然災害も、本当に少ないしこんなにいい所は、ありません。

夏休みに入りました。老人会と子供達のラジオ体操が始まりました。子供達は全部で５人です。小さな村なので仕方がないと思いますが、私は、子供は未来だと常々思っています。この現状にとても心を痛めています。孫達は巣立っていきました。再び千種に帰って来るでしょうか。今のままでは帰って来いとは言えません。勿論千種だけの事ではなく、今の世の中の最大の問題です。様々な学校教育への取り組み、試みが確実に成果を上げつつあると実感しております。巣立っていったちくさっ子がやがて故郷へ帰ってきてくれる時が来るようにどうか、引き続き努力して頂きますようにお願いいたします。

公民館で百歳体操を始めています。25～26名の有志で毎週木曜日３０分間の体操とお茶タイム。９０歳の方から年齢幅はありますが、お互いに和気あいあいの楽しい時間を共有しています。一人暮らしの方も安否確認も兼ね孤立感もなくなり良かったと思っています。高齢者が元気で楽しく生きている様子は、若い人たちにとっても良い事だと思います。地域が穏やかで住みよい環境であることも大切な事と思います。

身近に若い就農者が居てくれます。とても心強く応援したいと思います。出来るだけ声をかけ励ますように見守っています。生産組合や千種町、農協あらゆる機関でもって彼らが農業で生活してゆけるように儲かる農業が出来るように応援して頂きたいと思います。

☆主として商業に関する意見

40代
男性

商店街が少し寂しいような気がしますのでイベントなどでもう少し盛り上げていけたらなと思います。商店街を盛り上げていくために観光スポットなどをもう少し増やしていく。古き良き商店街を守りつつ新しいものも取り入れて行けたらいいのではないでしょうか。

こども園、小学校、中学校、高校、全てが揃っているので４校でのふれあいをもっと増やし地域とのふれあいも増やし、他町の人たちが千種に住みたい、千種で子育てがしたいと思えるような場所にしていきたい。

温水プールが出来たので、プールでのイベントを増やすなどし、千種町の４校に通う生徒達が存分に楽しんで利用できるよう割引制度などを設ける。高校生からは利用料が少し高いという意見が出ている。

40代
男性

観光資源である千種高原スキー場でスノーボードが出来るようになってから、若い人たちが夜遅くまで滑ることの出来る近場のスキー場ということで沢山来るようになりました。その中で聞こえてくる声が帰る頃には、どこも店が閉まっているから食べようと思っても食べられない。子供と来て食事をして風呂に入って帰りたいけど閉まっているというものです。まちづくりに関していないかもしれませんが、千種に来てもらう人が少しでも増えればと思います。

林業に関して、代々、山は家の者が受け継いでいますが自分たちの世代や若い人たちは自分の家の山をどれだけ理解しているでしょうか。山のことが分からなくても相談するところがあるのか。これから自分たちはどう所有していけばいいのかなど、心配が沢山あります。

☆主として観光資源・文化活動に関する意見

70代
男性

文化協会とは、耳ざわりの良い響きではあるが、中身は中々色々と有り、いつダウンするか分からないような状況です。この３年で２つのグループが退会や中断をしている。一つは高齢化による自然消滅である。今ひとつは、比較的若い人のわりと大きなグループであったが代表者の選考に関わってなり手がなく会が存続出来ないと退会に至ってしまったが、同行の人が何とか再開したいと相談しているらしい噂があり早い再開が待たれる。現代っ子は概ね自己中心的な、ただおいしいところだけ食べて行くだけの考え方では、グループや団体は維持できないのではないだろうか。

次に公開公表の場の公平化ということについて、波賀・山崎では、よく美術展や絵画が行われ千種の人も絵手紙を沢山やっている人が増えているが、なかなか千種では会場費が高くて貸してもらえない状況である。行政や司法では法の下の平等とか行政の公平性とか言うのに千種は外の事でもカヤの外に置かれている感じがするが、私のひがみなのか。市会議員の資質によるものだろうか。それに加えて２～３年前から政治では道徳や日本の心といったことを大切にする教育を進めるように言っているがそれも、なかなか浸透せず、むしろ財政面では、企業や大資本に優しく庶民に厳しい施策が行われ言うが易く行うは難しいということだろう。政治の裏側で献金やワイロを待っている政治家や行政官が大多数の日本では望むべくもないのだろう。

40代
女性

今年度、千種保健福祉課ではエーガイヤ食育教室「ごちそうさん」を年間１２回のコースで開催しています。教室では、千種の食材で調理や加工・保存方法の実習、また、災害時の食支援や千種町の食文化を探る勉強会などを実施しています。千種町の食文化を探る活動では、昭和初期の食生活を知るために年配の方に話を聞き記録を残し、時の世代の人が誰でも千種の郷土食を再現できるよう料理レシピを作成したいと考えています。また、教室では災害時の食支援について考える機会を作っています。個人・家庭・地域での災害時の備えについて勉強する予定にしていますが、実際にケースを想定し命を守る食について家庭や地域で確認する必要があるように思います。

「ごちそうさん」では、上記のように食に関する活動をしています。

活動の中で郷土食について教えて頂いたり、教えて頂いたことを、例えば、郷土料理教室などで地域に返していきたいと思います。

60代
女性

今、「ええとこセンター」は色々な分野で利用されています。商工会女性部も利用させて頂いています。

千種町は観光地でないためお客さんが少ないのが現状。でも、花では沢山のお客さんが訪れています。休耕田を利用して四季折々の花を植える。鹿対策が必要。

また、登山客・子供連れはアスレチック・魚の掴み取り、そして、ええとこセンターで焼いて千種で穫れた米を炊いて産みたての卵かけ御飯にやたら漬けで充分ご馳走だと思います。私自身、富良野で氷水に浮かんでいるトマトの丸かじり、キュウリの一本漬けが、おいしかったのが今も忘れられない。また、継承していくために、おはぎ・柏餅・かきもち・もろみ等、年配の方に教えてもらう。イベントで売る。

70代
男性

数年前より奥西山に伝わる盆踊りを復活させようと老人会・べに花会有志で誰にでも踊りやすいように手を加え仕上げました。文化継承も兼ね子供会にも声を掛け練習しております。寄る年波には勝てず手足の不調も聞きますが音楽がかかると早速踊りを楽しんでいます。消防団員も「屋台」「くじ引き」と場を盛り上げてくれます。

巣立った子供達・墓参りの帰郷客等交流を温め住民相互間の交流の場ともなる盆踊り、やがて成長し巣立っていく子供達のふるさとづくりになると、確信しています。この恒例の「盆踊り大会」は私達が引き継ぎ残していかなければならない大切な行事の一つです。

この間、隣保で「さなぼり」にウエストバスを利用して、まほろばの湯に行ってきました。乗り継ぎの時間、バスの便等普段自動車に乗っている身には思うように動けず大変でした。しかし、老人の交通事故の多い昨今、将来を見据えたとき「ウエストバス」は、無くてはならない事業だと思いました。まず、私達も一度利用し不便な所は声を上げる人が多くなればいいなと思いました。

70代
男性

観光市をかかげる宍粟市は大きく揖保川水系と千種川水系に分かれるが、千種川水系は旧千種町から佐用町に流れるため、市からは軽視（?）されていると感じる。

実際、上郡町や赤穂市の方は千種川のミネラルの多い水をカキなどの養殖には必要なものと捉えて下さっています。千種川の源流をかかえる「千種」として誇れる美しい水と栄養分の多い水を常に供給し続けていく責務があると考えます。下流市町との交流を深め、水の大切さや環境について認識を深める必要があると考えます。

まちづくりとは（?）といつも、考えられさせられております。

町を活性化させ少子高齢化に歯止めを・・・etc

ですが、実際私は団塊の世代で１学年 200 人くらいいた時代に小・中学校時代を過ごした者にとっては夢にも想像しなかった現実です。それでも、前向きに進んでいくために皆で知恵を出し合っていくべきと考えます。県民交流広場事業の補助金が無くなる将来を見越して、もっと考え進んでいって頂きたい。旧まち協委員の一人として希望します。

60代
男性

古代からたたら鉄が盛んで明治の中頃まで天児屋鉄山・荒尾鉱山・高羅鉄山などで、千種鉄が作られていました。その「たたら製鉄の町」をアピールする必要があります。

1　鳥が屺トンネルの岩野辺付近、下河野の道の駅付近、室橋付近などに「たたら製鉄の町」という大きな看板の設置

2　鉄の道の整備　下河野から大沢までの塩地峠は明治の中頃まで物資輸送の重要な交通路でした。この「鉄の道」を誰でも歩きやすいように整備し案内板なども設置し「鉄の道」として、もっとアピールするべきだと思います。

3　旧ミニ図書館に置いてあります昔の農機具や民具の展示や整備を希望します。

☆主としてまちづくり全般に関する意見

50代
女性

少子高齢化のこの町において、何が大切かを考えた時、共に助け合う見守り合う共助ではないかと思います。現在、働く女性が増え時間に追われ余裕が無くなり近所だけで無く親戚とすら付き合いが薄れかけています。声を掛け合う事が減り悲しいです。

一緒に料理したり、畑をしたり縁側でお茶を飲んだりして「寄ること」を増やすことこそが、共助に繋がっていくと私は思います。どんなに福祉が充実しようと補助事業が増えようと、助け合いの無い地域には、独居の寂しい未来しか見えません。

２０年ほど前までは、盆踊りや祭り、花見やさなぼりや、他、沢山寄ることがあり、近所の事も自ずと知ることが出来ました。

ええとこセンターも多くの方に利用してもらい、人の集まる場所の提供になるよう、アピールしていきたいです。

60代
女性

千種町の悩みと言えば人口減・少子高齢化。１０年後２０年後は、どうなるのという不安だと思います。千種で子供を産み子育てしたいと思える環境作りは特に必要ではないかと思えます。千種で育って良かった。ずっと住みたいと思う気持ちを若い子に持ってもらえるまちづくりに取り組んで欲しいです。エーガイヤの子育て支援センタープラス子育て広場などがあれば、いいと思います。土日に子供を遊ばせるだけでなくお母さん達の憩いの場、時には高校生などにも協力してもらって小さい子に接することにより優しい気持ちを育み命の大切さなどを伝える。近所に子供が居ないおばちゃんでも子育てに協力出来るような体制づくり。ボランティアによって全国に貧困の親子のための「こども食堂」が広がっています。千種においては、多世代の交流の場に出来ないでしょうか？

町民大会が、無くなってしまい残念だという声をよく聞きます。多世代交流という意味でも岩野辺自治会でしているような小規模な運動会を町全体でするのもいいと思います。

千種で生活していく上で田畑・荒地を守ることに不安を感じている人もいるはずです。

これからは、ますます増えそうです。共同で田を管理する方法があればと思います。

シルバー世代も活躍出来そうです。

60代
男性

千種まちづくり推進委員会

各種団体　　差し迫る課題や問題点はあるか→

サークル　　改善点がいくつあるか→

市町の課題
国の課題　　具体的に推進され今後も継続される→

「こうだったらいいのに」が「そうなっているか」　　幸福度・充実度・貢献度

50代
男性

少子・高齢化が進んできて自治会においても、事業等を行うにしても同じような人が取り組んでいる状況です。地域全員が協力して活気ある取り組みをしていくのが、大切だと思います。

農業でも、遊牧地が多く見られる感じです。若い人達が取り組める農業をしていかなければいけないと思います。

60代
男性

まちづくりは⇒全員参加のまちづくりを（住民が一致団結して力をあわせて）

関係者の連携をもっと！（絆）今日の会議がまさにそれだ。

伝統や歴史を重んじ守りながらも新たな魅力づくりを展開（飽きさせない工夫を）

道路整備の促進（なんと言っても通勤範囲がＯＫ）

情報発信→自然の持つ魅力をもっと宣伝（ＰＲ）しよう！

都市住民との交流を積極的に行いまちを元気に・・・(旧東小の活用)

山→１０００m級の山々

　　５０名山→市民局の東方の上谷山（６００m？）登山道を整備したい。

　　山を活かしたまちづくり活動の展開

川→名水百選、源流、本流、谷川、渓谷、滝祭り、鮎、アマゴ　etc

水→清流，３年腐らない水！河呂や河内の取り組み

田→休耕田の活用、農業体験　etc、おにぎりおいしい！

田舎の風景を宣伝（ＰＲ）したまち歩きを実施

観光振興⇒おもてなしの意識を高めて観光資源の活用を（もてなしの心）

人情の豊かさが千種町の良さか　地域力を高める　無いものねだりよりあるもの探しで観光振興を　（例）　たたらの歴史を観光に・・・

赤穂義士祭は、赤穂の４番バッターらしいが、赤穂でも１・２番バッターがないとの事であり千種町の「売り→４番バッター」を育てよう。

スポーツ振興（人を呼込み飲食→宿泊 etc 地域経済の活性化に寄与する観光資源だ）と観光対策は表裏一体だ。

都市住民との交流は宍粟市全体で（点でなしに線で結ぶ→当然岡山や鳥取と）

県境（３県）であることのメリットが多い。

１村１品運動に因んで→各自治会で「おらが村の自慢のもの！」とか・・・

神社・仏閣を町歩きの立ち寄り所として推薦したいが・・・

人口減対策⇒住みよい町であることの情報発信が必要です。

子供は地域（日本）の宝物だ。子育て支援は大切です。

地域活性化⇒商工会も頑張ってもらい組織強化を･･･(雇用の場の確保が人口維持や増加に繋がる)

まちの特性（上記に記載内容）を活かし千種（播磨）の魅力を高めたい。

地域で子育て→最大の人口減対策として地域で見守り安心子育てが出来る環境をつくる。人格の形成期を千種で過ごした経験は大切だ（子供達が千種で生まれて良かったと思えるまちづくり活動を）

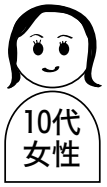
結論として、みんながこの千種町に誇りを持てるまちづくり活動を展開しよう！！

千種町が自然も、人間関係も風通しの良い安心ですっきりとした里山のふるさとが保持でき、おしゃれな町づくり。川魚が沢山泳いでいる千種川になり鮎釣りが昔のように出来る魚の住める川の町。夏蛍が沢山飛んでいる町。民家からの里山があり、森が遠くにあるような明るい日が入る山が整備され、熊や猪・鹿などが奥山に帰り民家が安心して暮らせる町。田畑が安心して耕作出来る町。

フェスができる会場を作る。（交通機関を整えないとダメですが・・・）

話題性のあるカフェ・お店（鳥取みたいな・・山しかなくても沢山人が来てた）

若い子が働ける施設が少ない。グランピング施設とか・・・



図書館で勉強することを許可してほしい。

若い人が働いているカフェ（喫茶店）でもあると、行ってみたいなと思う。

自然いっぱいの所に住んでいるが、イチゴ狩りやブドウ狩りに町外に出かけることがあるので、千種にその様な所があると、都会の人達も足を運ぶかもしれない。

千種や近場で狩り体験が出来ると嬉しい。

公園や少しでも動物が居るところが充実してほしい。

ワイワイ、夜もさわげる施設が欲しい。

20代
女性

すべてに山の手入れが共通していると思う。

（防災に関して）　自然災害では土砂崩れ等が心配だが、細い杉の木では大雨を受け止めることはできない。

（農業に関して）　山に食料がないからシカ、イノシシ、クマが降りて来て田畑を荒らす。モンキードッグも有効だが、隣の村に追いやるだけなので、山に野生動物のえさとなる雑木を植えることも大切。

（林業に関して）　杉・ひのきばかりでなく、春夏秋冬いろんな色を見せてくれる山が欲しい。（実のなる木はもちろん）そうすることで今すぐではないが、何十年後かには昔の山が戻り、野生動物との共存もできる可能性があるのでは？防災にも観光にもつながる。

（教育・子育てに関して）　子育てする人が少ないため充実はなかなか厳しい。まず、子育て世代が帰りたい、住んでみたいと思う町にするべき。仕事がないし、給料が低すぎて困る。

（その他）　歩いて帰れる距離に飲み屋が欲しい。

30代
男性

私は現在千種町で、地域の子供達に社会体育を通して関わっていますが、他の指導者の方々と話をする機会がありました。そこで、なぜ今指導をされているのか伺ってみました。すると、その競技が好きなことは当然ですが、やはり「地域の子供達のために自分が出来ることをやっているだけ」とか、「自分が育った地元に何か恩返しをしたい」という気持ちを皆さんが持っておられました。そして、その気持ちは、長年青年部員として数々の地域イベントに積極的に参加するうちに自然とわき上がってきたことなどを熱く語られ、私も共感しました。このことは、スポーツの指導に限ったことではありません。多くの先輩方が、自分の得意分野で地域のために様々な活動をされています。

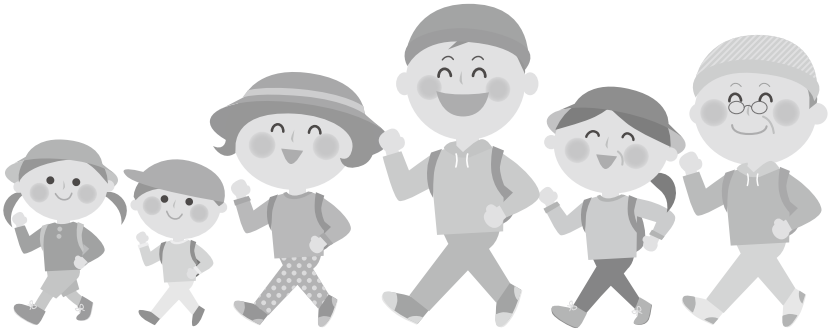
よく、「地域活性化」と言われます。しかし、何を持って地域が活性化したと言えるのでしょうか？例えば、観光地に沢山の人が来れば、活性化したと言えるのでしょうか？それとも、商店街の空き店舗が埋まって沢山の人の流れが出来、商店の売り上げが伸びれば地域活性化でしょうか？外面的には、確かにその通りかもしれません。でも、私はもっと内なるものが必要ではないかな？と思うのです。

私の尊敬する先輩の言葉をお借りすると「本当の意味での地域活性化というものは、その地域を愛する気持ちを持つこと」が大切で、そして、「そういう気持ちを持った人・仲間を一人でも多く作り出すこと」が必要でないのかな？と思うのです。

地域を愛する気持ちを持った仲間を増やすこと「地域愛」を育てることこそ地域活性化への一番近道ではないのでしょうか。

そして、そんな愛のある地域で育った子供達が地元を愛し、また地域社会を活性化させていく。そんな流れの中で、我々が継続して地域の核となり、地域活性化の礎になろうではありませんか？

地域内で購入出来るものは、出来るだけ地域内で消費することが商店街の活性になる。



まちづくりへのご意見・ご提案　募集します

「意見集」第一号　いかがでしたでしょうか。この度は、各種団体等の役員さん、会員さん等にお願いして書いていただいたものでした。ご投稿頂いたみなさん､熱い思いを本当にどうもありがとうございました。

そこで、いよいよ、町民みなさんからのご意見を募集させて頂きたいと思います。子どもさんからお年寄りまで、どなたでもけっこうです。テーマも何でもかまいません。身近な些細なことから大きなテーマまでけっこうです。建設的なご意見はもちろん大歓迎ですし、また、具体的な提案ではなくても、日頃の思いを書いて頂くだけでも大歓迎です。みなさんの思いを出し合うだけでも、「やっぱり何とかしよう」という気運が高まります。あきらめることが一番あぶないですね。

原則として、ご住所・お名前・年代は書いてください。(どうしてもの場合は匿名でも可)

ある程度集まり次第、「意見集第２号」を出したいと思います。その際は、年代と性別のみの記載とさせて頂きます。

この用紙をミシン目で切り取り、ご記入頂いて、千種商工会あとの「ええとこセンター」のポストに投函してください。あるいは、FAX かメールでもけっこうです。

ええとこセンター
FAX　0790-71-0230　　**メール** eetoko@meg.winknet.ne.jp
(メールで送信できる方はできるだけメールでお願いいたします。)

一家に一人とは限りません。若い方からお年寄りまで、男性・女性、一人でも多くの方の意見をお待ちしています。その時は、この用紙をコピーしていただくか、他のどんな紙でも結構です。

個人への批判、特定の政治団体や宗教等に関してのもの、個人的な営利目的のもの、その他、この企画の趣旨にそぐわないものの掲載は見合わさせて頂きます。その判断は、失礼ですが、町づくり推進委員会にて判断させて頂きます。

あなたの一筆が、明日の千種を作ります。どうぞよろしくお願いいたします。

～～～